

マネジメントコース研修生のつばやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感を述べたものです。

※ 自治大学校における一年間の研修であり、通常の研修(第1部課程等)を履修し、残りの期間は自治大学校における実務に参画することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

4月に自治大に来た当初は、「教授室」ってどんなことをやるんだ？どんな教授と一緒に仕事をするんだ？と謎でいっぱいでした。『在留外国人に係る法制度』をテーマに、来年度以降の研修生が本課程の事例演習で使用するテキストを、約半年で1冊完成させるという任務を与えられ、マネジメントコース特別研修生(以下、特研生)の私にかなりの裁量が与えられました。裁量があるということは、自由と共に責任とプレッシャーがあるということです。でも、せっかく任せてもらえたのだから、研修生にわかりやすく、おもしろくを目標に、昨年までのテキストとは毛色を変えて、コラムを入れたり、解説や写真を多めに取り入れたり、工夫しました。本課程中はかなり忙しいので、テキストをじっくり読む時間がありません。そのため、自分が一生懸命作ったテキストを、どうにか飽きずに、最後まで読んでほしいとの思いを込めて作成しました。今回は、実地調査にもたくさん行かせていただきました。現場を見るのと見ないのでは、テキストの説得力が全く違います。いつになく膨大なページ数の超大作になってしまいましたが、なるべく多くの研修生に使ってもらい、思いが届くといいなと思います。

私たち特研生10人は、1年間も一緒に暮らしているので、仲良くなり、連帯感があります。私がインフルエンザに罹患したとき、そばに家族がいない不安は全くなく、私に何かあったら特研生がいるという不思議な安心感がありました。実際、特研生にはすごくお世話になりました。あと1ヶ月でお別れだと思うと本当に寂しいですが、この絆はずっと続くものと思います。

立川で春夏秋冬を過ごし、住みやすい立川が好きになり、詳しくなりました。毎日のように自転車で散策し、おいしいお店を探し回った日々が懐かしいです。ラーメン屋の多い立川ですが、ときには自転車で国立まで行き、おしゃれなパンケーキを食べ、都会生活を満喫しました。またいつか、立川に帰って来たいです。
(R.S)

実地調査で大分県豊後高田市へ



仏壇巡りをした政策立案のメンバーと米田先生

